

徳島玉翠会

ご挨拶

徳島玉翠会会長

長尾 哲見(昭和四十四年卒)

徳島支部の会員の皆様にはご清栄の事と存じ上げます。
さて、残念ながら今年も役員の協議の結果、現下のコロナの感染状況を踏まえて総会を中止とさせて頂きました。

その代わり、昨年同様に会員相互の絆として総会誌の発刊を行い、総会の意義を留める事になりました。例年と比べるとコンパクトな内容ですがご覧頂ければ幸いです。

尚、全国的には総会を中止する支部、オンラインで総会を開催する支部と様々です。

オンラインでの総会も状況を考慮するとやむを得ないかもしれませんが、同窓会は会員同士が顔を突き合わせて楽しく語り合える事が何よりも大事だと思います。

その意味で県内でも一日も早くコロナの感染が収束し、再び一堂に会した総会が開催される時を強く念願するとともに徳島玉翠会の今後益々の発展と会員皆様のご健勝を心から祈念してご挨拶とさせて頂きます。

ご挨拶

玉翠会会長

間島 賢治(昭和四十七年卒)

徳島玉翠会の皆様には日頃より玉翠会の運営に関して多大なるご支援、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本年は久しぶりに出席させていただくことを楽しみにしていましたが、新型コロナウイルスの影響が依然として続いており残念に思います。さて、本年五月の玉翠会総会で会長に就任いたしました昭和四十七年卒業の間島賢治です。伝統ある玉翠会の会長は、横田前会長はじめ名

立たる先輩がお務めになられており、その後をお引き受けすることになり、私で本当に良いのかと改めて身の引き締まる思いです。思い返せば三十

歳前に東京から帰省し、高校時代の恩師(故松野先生)にお声がけいただき、玉翠会の九十周年事業の一員としてお手伝いをさせていただいたのが契機で、現在に至っています。今後とも皆様方のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

高松高校は来年一三〇周年を迎えることになりました。香川県立高等学校としての行事は来年計画される予定です。玉翠会としての祝賀会は、依然としてコロナ禍でもあり再来年に開催する予定です。その折には、高松に帰省いただき、久しぶりの同窓会をお楽しみいただき、地域を盛り上げてください。

新型コロナウイルスの影響がない頃は、徳島には仕事の関係で月1程度はご訪問していました。徳島玉翠会では、毎回楽しい企画をされており、また二次会に参加させていただいた折には、皆様の素晴らしい歌声をお聞きした楽しい思い出が残っています。

ふるさと香川は「素晴らしいまち」だと思いつつ、サンポート高松を散策しています。新県立体育館、徳島文理大学移転新キャンパス、高松ビル、インターナショナルホテルなど二〇二五年に向けての再開発にご期待ください。

最後になりましたが、徳島玉翠会の益々のご発展と会員皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。

ご挨拶

玉翠会前会長

横田 實(昭和四十二年卒)

徳島玉翠会の皆様、八年間大変お世話になりました。この五月末をもって、会長職を、昭和四十七年(一九七二年)卒の間島賢治氏にバトンタッチ致しました。

思い起こせば、毎年ホテルグランドパレス徳島での徳島玉翠会総会に参加させて頂き、交流の機会を与えて頂いた事に、厚く感謝申し上げます。長尾会長をはじめ、同級生の

中村君等に歓待を受けました事、又、総会懇親会でご挨拶をさせて頂いた事が深く印象に残っています。高松からJ.Rで一時間の徳島ですが、普段は、訪問の機会が少なく、徳島玉翠会総会で阿波の空気を感じることが出来ました。しかし、徳島香川もこの二年半コロナ禍に振り回され、各玉翠会総会も中止となり、懇親の場を失くした事は、本当に残念です。ウクライナ戦線と共にコロナ禍の早期終焉を向かえる事を願うばかりです。

例年卒業証書授与式の模様をお知らせしていますが、今年も令和四年三月四日に挙行され、私も最後の卒業式出席となりました。全日制三一五名、定時制三名、通信制二十四名、卒業生三四二名の卒業式で、これをもって、卒業生累計は五五、三〇七名となりました。恒例の卒業生答辞は、橋本晃次郎君が、簡が無く、例年と比較して少し大人し目に、しかし最高の盛り上がりでした。

そして、これが最後の寄稿となりますが、本当に八年間ご指導ご鞭撻そしてご援助頂きました事を厚くお礼申し上げます。これからも徳島玉翠会の益々のご発展、又、会員の皆様のご健勝を祈念申し上げます。長らく有難うございました。

ご挨拶

香川県立高松高等学校校長

中筋 功雄(昭和五十九年卒)

遅ればせながら初めまして。昨年度、令和三年四月より本校の校長として勤務しております中筋と申します。昨年度の本稿には前校長の出射隆文先生が玉稿を寄せられましたので、私がご挨拶を書かせていただきます。これが初めてとなります。しかも、新型コロナウイルス感染症対策のために昨年度の徳島玉翠会総会が二年続けて中止となりましたので、会員の皆様に直接お会いしてご挨拶申し上げる機会もないままに、着任以来一年以上が経過しての拙稿となります。そして今年の総会もまた中止

止が決定したと伺っておりますので、皆様にお会いできるのはまだ先になろうです。誌上ではあります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、コロナ禍は三年目に入っておりますが、まだまだ終わりが見通せず、学校運営もコロナの顔色を窺いながら、できること、できる方法を探りながら極力通常の教育活動に近づける工夫の連続です。徳島玉翠会の皆様にご尽力いただいて実施しております徳島大学医学部訪問を筆頭に、ここ二年間実施できていない行事もありますし、体育祭や文化祭のように実施はしたものの非公開などの制限付きのものもあります。それでも、生徒諸君は逞しくもしなやかに彼らなりの青春を謳歌し、勉学に精進してくれています。その成果として、今春徳島大学には医学部、薬学部を含んで九名が進学をしておりますので、徳島玉翠会の貴重な金の卵としてご支援いただけると幸いです。

ところで、本校は今年で創立一三〇年目を迎えます。明治二十六年に香川県尋常中学校の設立と香川県高等女学校の改称がなされて以来、激動の近現代史のなかで本校が香川県を代表する高等学校であり続けられたのは、ひとえに卒業生の皆様の絶え間ないご努力や果敢なチャレンジ精神の賜物であると考えます。国の内外、また各方面で活躍される先輩諸氏のご功績に触れるにつけ、誇らしきもあり、また現役生の教育を預かる者として身が引き締まる思いです。玉翠会の『会報』にも書きましたが、来年度に一三〇周年を記念した文化祭の開催、記念誌の発刊などを予定してその準備に入っております。コロナの状況にもより、帰郷された皆様に記念文化祭をご高覧いただけることを今から楽しみにしております。

最後になりましたが、本総会の盛会にご参加の皆様方、ますますのご健勝、徳島玉翠会の更なるご隆盛を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

第三十九回東京玉翠会DX (オンライン)に参加して

徳島玉翠会幹事

伊賀 弘起(昭和五十一年卒)
令和三年七月十日(土)にオンラインで開催された「第三十九回東京玉翠会DX」これがニューノーマル玉翠会」に長尾会長の名代として出席させて頂きましたのでその概要ご報告申し上げます。

新型コロナウイルス感染の拡大により、令和二年には中止となった「日本一の同窓会」ですが、本年は幹事団のご努力によってSpatialChatを用いたオンライン同窓会、その名も「ニューノーマル玉翠会」という形式で開催されました。本番の1カ月前から何度もリハサルの時間が設定されており、会員は自由にこのSpatialChat内の総会ページに入室して、その都度同級生と懇談ができることができました。

そして本番当日ですが、私が最も驚いたのは来賓全員が開会時間の相当前に別室へ集められ、司会者の御指導のもと、メイン会場へ移動して挨拶するためのリハサルが行われたことです。いよいよ本番の時刻になり、SpatialChatのメイン会場においては開会挨拶、議事、来賓紹介と通常の対面総会と変わりなく式次第が進行されました。その間、我々来賓は「司会者が誘導するまで来賓室にて待機してください。」との指示がありました。私にとってこの来賓部屋での諸先輩方との懇談時間(緊張時間)は何時間にも感じ、その緊張の結果として不出来な挨拶となっていました。徳島玉翠会の方々にはこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

総会に続いては懇親会(うどんDE乾杯、同窓会紹介スライド、など)など、これも通常の総会と変わらない景色が画面に映し出されており、そしてこれまでの同窓会と大きく異なるのは、メイン会場とは別にクラブ活動別と卒業年別に多くの小部屋が用意されており、いつでもその小部屋に移動して懇談がで

きるという点です。その際には自分のアバター(分身)を自由に移動させて、話したい相手に接近させると会話ができるという、極めてリアルな懇親会を楽しむことが可能でした。確かにこの複雑なシステムは東京玉翠会だからこそ可能になったと思いますが、もし類似のシステムを安易に活用することができれば、例えばお体の御不自由な方も自宅から参加できる、あるいは海外からも同時に入室できるといった利点があり、

IT技術が進んだ将来には徳島玉翠会でもその導入を検討しなければならぬ時期が来るのではないでしょう。さて挨拶の緊張が解けた後は卒業年の部屋に移動して、関東のみならず、全国から集まっていた同級生と歓談し、最後にメイン会場での「校歌、応援歌斉唱、応援団エール交換」を楽しみ、閉会となりました。なおこの同級生の小部屋は深夜二時までは利用が可能とのことですが、学年以上では「オンライン飲み会」行われたのではないのでしょうか？

最後に「東京玉翠会 渡辺修会長」が「本日の会は全国を見渡しても前例のないチャレンジであり、東京玉翠会の総会史上に新たな一ページを刻むことでしょう。」と述べられたことを紹介して御報告いたします。

新しい趣味、みつかりました

徳島玉翠会副会長

中村 芳正(昭和四十二年卒)
バドミントン、ゴルフ、テニス、ボウリング、ターゲット・バードゴルフ、これらが私の趣味と言えるものでした。運動系に偏っており、家の中でできるものがありませんでした。

きっかけは北島町主催の料理教室でした。当時、塩分制限をしていたため、外食がほとんどできず、自分で何か作りたいと思って応募したのを覚えていました。その後、町主催の「男の料理教室」がで、それにも参加しました。皆でガヤガヤしながら、ご飯を炊き、おかずを作り、

皆でおしゃべりをしながら食べる。その中に毎回一品デザートがありました。季節や主菜に合わせて、いろいろなお菓子を作りました。いろいろのとき、小豆カステラがありました。卵と砂糖をしつかり混ぜ、米粉、ドライ餡、ベーキングパウダーを加え、さらに小豆餡、山芋を加え、蒸して仕上げました。この時の上品な味が忘れられません。料理自体は味付けが自分で判断できず、とん挫しましたが、お菓子作りは、材料を間違えずに秤量し、混合し、反応させて、仕上げる。これならできると

思いました。学生時代に薬学で実験をしていたのと同じではないか。さらに付け加えるなら、実験は反応が終了したらそれで終わりではなく、使った器具や道具をしつかり洗い、乾燥させ、元あったところに戻す。これができて初めて終了であること。これをたきこまれました。このおかげで、家で菓子作りをしても、食器等を元あったところに戻すまでを実践しています。これはお菓子作り以上に家では喜ばれています。

コロナ禍にあつて、徐々ににはあります。カステラを広げています。小豆カステラを筆頭に関東風桜餅、マドレーヌ、カステラ、マフィン、パウンドケーキ、ガトーショコラを作りました。これからは新しいお菓子に挑戦してみたいと思っています。とはいつても全くの我流で、ネットで調べてはやってみるの繰り返しで、理論的なことはよく分かっています。友人に尋ねて教えてもらっているのが現状です。

お菓子作りの一番いいところは、作ったものを、人に食べてもらい、喜んでいただく、輪が広がることだと思っています。特に男が作ったと言うだけで話題作りに貢献している気がしています。お菓子を食べる時、みんなが笑顔になり、ほっこりして小さな幸せを感じるという事は世界共通だと思えます。これからお菓子作りを通して、笑顔が広がってほしいと願っています。

百人一首とアンコール曲

徳島玉翠会副会長

香川 典子(昭和四十七年卒)

三年ぶりの行動制限のないGWとなり、感染対策をしながら各種イベントが開催されたようである。徳島城博物館では小中学生の「かるた大会」が行われたとのニュースがあり、百人一首の上の句を読み上げると、二人一組となった参加者が下の句の札を探している映像が放送されていた。

そうそう、高松高校一年生の冬休みの宿題は百人一首を覚えてくることであつた。もちろん、休み明けに「かるた大会」が予定されていた。私は国語が苦手で、古語となると意味不明な用語が続出して、さらにハードルが上がる。何より、これらの歌に共感があつた。なにしろ百人一首の多くは恋の歌であり、身を焦がす恋や涙で袖を濡らす悲しみと云われても理解不能である。私にとつては百人一首もお経も呪文も、同じ響きに過ぎない。

案の定、冬休みに覚えられたのは、せいぜい十首程度であつた。休み明けの大会はひどい状態であつた。上の句を読まれても下の句がわからず、下の句が読まれて、ようやく札を探す作業にとりかかる始末。これは、ひらがなを覚えかけた幼児の「かるた大会」で、「犬も歩けば」の「いの」の札を探すのと同じレベルで、高松時代の苦い思い出となつていく。

さて、子育てが一段落してから、趣味のクラシック音楽鑑賞はライブにハマっている。ライブの最大の楽しみ再生音楽との違いはアンコールである。予定のプログラムに加えての演奏で、まさにオマケ、お得感！主婦には嬉しい。また、予定のプログラムは予め公表されているが、アンコールは当然ながら「やる」とも「やらない」とも、また曲名も発表されていない。会場の鳴りやまない拍手に添えて、さあアンコールが始まる、会場が再び静寂に包まれた時のワクワク、ドキドキ感！何が出てくるか、スリルとサスペンスに満ちた瞬間である。

た瞬間である。

東京オペラシティでのミシユク(第九回チャイコフスキー国際コンクール第二位)ピアノリサイタルのアンコールが始まる時のことである。長身のミシユクが体を小さくして鍵盤に向かい、その細く長い指で柔らかい音を奏でた。最初の二音を弾いただけで、わかつた!!「月の光」(ドビッシ作曲)である。静かで優しく、少し切なく響くメロディーにうっとり聞き入つた。その日のプログラムはショパンやリストらの超絶技巧を要する曲が多かつたので、幻想的で美しい「月の光」は、感動して高揚した気分を沈めて癒してくれるアロマのよう。ホテルまでの帰路は、あえて地下鉄を利用せず、新宿中央公園を通り、都庁などの高層ビル群を抜けながら新宿駅まで歩いた。夜空に月は出ていなかったが、頭の中では「月の光」が繰り返して流れていた。

ところで、百人一首では、上の句最初の一字で下の句がわかる歌が七首、二字では四十二首、三字で三十七首、四字で六首、五字で二首、六字で六首と六字までで下の句がすべて決定する。なあって！歌の意味など覚えなくても、上の句を最大六字覚えて、それに対応する下の句を覚えれば、立派に「かるた大会」ができる。しかも全部でも一〇〇首である。何が出てくるかわからないアンコール曲を二音で当てるより、はるかに簡単なように思われる。

あれからウン十年、人生経験を積み、身を焦がす恋も涙で袖を濡らす悲しみもしつかり理解できるようになった。しかし、この歳になつて百人一首を覚えるのは、たとえ六字とはいえども至難の業である。やっぱり私は「幼児」の「かるた大会」にしか参加できない。高松高校で宿題をやらなかつたツケはこんなところに……

追記…コロナ禍で二年余り、ライブに行くことができていません。コロナ前のようになる日を心待ちにしています。

草取りを考える

徳島玉翠会副会長兼事務局長

坂口 英則（昭和四十八年卒）

マンションにお住みの方は以下の文章はスルーしていただいて結構です。

広い狭いに関わらず土の庭がある方は興味があればお読みください。さて、毎年四月から五月になると気温が上がり、適度な雨が降ると植物たちの活動が活発になってきます。ガーデニングをやっておられる方にとっては植えた草花が芽を吹き始め葉が展開して開花するのが非常に楽しみな季節ですね。

一方、意図して植えた植物以外の植物、通常雑草と呼ばれる植物もきちんとした学名や和名もあるのですが、この時期やたらと元気になり、土があればそこから辺中芽を出し生長を始めます。

これを何もしずに放っておくと、庭はまるで原野、除草しようとする重労働、しかも近所からは人間性を疑われかねません。

この雑草の中でも根絶がほぼ不可能なしぶとい奴がイネ科メヒシバ属とかタバミ科カタバミ属ですね。

どちらにも匍匐茎を伸ばして節毎に発根して子や孫を作り、抜こうとするとちぎれて取り残しが出ます。これからまた抜がつていくのです。今度にしよつと、などと怠慢をして抜くのが遅れると、雑草はそれを見逃さず、花を咲かせて種を作りそこから辺にまき散らせてしまいます。種子散布といえます。カタバミなどは独自の発射装置を持っており、実が熟すと鞘がはじけて種子を一、二mも発射します。

それから、雑草とは呼ばれていないのですが、ハーブのミント類とタイム類、地下茎と匍匐茎を伸ばしまくり、我が家の花壇はこいつらにはば占領されております。でも夏にはハーブティーにしたりするので、根絶しようとはしていませんが、とにかく、雑草が生長して開花し、種子ができる前に抜かなければ、以

後次々と生えてきて、延々と草抜き仕事をするはめに なります。

除草作業には、まず一番原始的なねじり鎌など簡単な道具を使う手作業、除草剤散布、刈払い機の三種類がありますが、どれも一長一短、時間が掛かって腰が痛い、ペットがいて葉を使えない、機械の値段が高いし、面積が狭い、等々。

草取りをしていて何が大変かという、雑草は取っても取っても減らないこと、三々五々時間差攻撃をかけてきます。栽培する野菜や花は、いつ植えたらいつ花が咲き、いつ実が生りますというのが大体決まっています。雑草にはそれが全くありません。まあ、二十四時間子孫を残すことだけを考えているので、勝てる訳はありませんね。

こんな草取り作業（手作業に限りますが）ですが、楽しみを見つけていけることができます。

まずは庭が美しくなること。抜き終えると非常に満足感、達成感を味わうことができます。

次に、植物観察ができます。なかなか名前が覚えられないのですが、その花の色や形、葉の形や着き方、根の生え方など様々な生態を観察できます。後で図鑑を見て名前を調べるとのも楽しみの一つです。最近はおマホを使つてその場でググっても調べることができます。とっても便利。そして私が一番草取りに見出す効用は無になれること。一本一本手で抜く時には何も考えておらず、目と手が自動的に動いています。トランス状態ですね。

さあ皆さん、庭に出て草取りをしませんか。色々な楽しみを見つけていけることができますよ。

リモートワークの戸惑いと慣れ

徳島玉翠会副会長

松原 淳（昭和六十年卒）

今年の総会も中止となつてしまいました。その原因であるコロナ感染症の影響に関連して雑感を書いてみます。

二〇二〇年初頭からの感染者の

増加に伴い、私の勤める会社でもリモートワーク（在宅などでの勤務）が推奨されるようになりました。特に私の業務は主にパソコンを使った事務作業でしたので、会社のシステムに接続できるパソコンさえあればどこにいても業務が可能な状況となりました。

パソコンを使つてリモートワークで本格的に業務を行うためには、一定のITの技量がどうしても必要となります。例えば社内システムの情報保管場所や公共の情報保管場所から必要な情報を素早く検索し、探し出す能力。次々とで上がる文書を、社内システムの適切な場所に整理して保管する能力。リモートの会議等が連続する場合に、素早く切り替えて出席を継続する能力。文書を印刷することなく、パソコンの画面に表示される複数ページの文書を見て、誤記等がないか確認する能力等々。

しかしながら、コロナ禍前までの私の仕事のスタイルとしては、とにかく文書を印刷して印刷物として情報を集積し、仕事場の書架が主要な情報保管場所となっていました。また、個人の事情を申せば、IT機器の使用については、私はほぼIT難民的な技量しか持ち合わせていませんでした。一例を挙げますと、個人の電話はいまだにガラケー（ガラパゴス様式携帯電話、二つ折りする機種）を使つていました。この程度のITの技量でしたので、リモートワークが主となった時の戸惑いは、たいへん大きなものがありました。このような時に頼りになるのは、やはり人です。会社の同僚に電話で何でも聞きまくって、少しづつ苦境を乗り越えていきました。

リモートワークを始めた約二年前にはこのような状況でしたが、何事も場数を踏めば慣れるもので、今のところは何とか業務に必要な最低限のことはできるようになりました。今年の春以降は、警戒都道府県の設定も解除され、社内の規制もかなり緩和されたので、出社することが

段々と多くなってきました。それで改めて思いましたが、私はやはり会社で同僚たちと顔を合わせて仕事をすることが、性格に合っているようです。ただ満員の通勤電車で会社に通うような方は、リモートワークも大いにメリットがありますので、うまく使い分けできるような制度になればよいですね。

コロナ禍が収束し、徳島玉翠会総会でもた皆さんとお会いできる日を楽しみにしています。

街道を行く

徳島玉翠会幹事

中原 大道（平成六年卒）

日頃、自動車でよく通る街も一本裏通りを歩いてみると全く違った表情が見える。その魅力にとりつかれて最近裏通りを歩くというレジャーを見つけた。

現在は自動車での移動が主流、それに伴いお店も自動車が入りやすい大通りに面した大型店舗ばかりが目につきます。しかし大通りから一本入ると、メインストリートであった旧街道、かつては栄えていた商店街、汽車を乗り降りする人で賑わっていた駅周辺、ほとんどの場所が現在では閑散としていますが、かつてお店であつたらしい建物や、古くから残る立派な旧家や醫院跡があつたりして表通りとはまったく違う場所に感じられます。そういう道を、いにしへの繁栄を頭に思い描きながら歩くのはなかなか楽しいものです。

古くからある通りには歴史ある神社仏閣も軒を連ねています。年をとったせいなのか、コロナ禍の生活で心境に変化があつたのか、こういう神社仏閣に足を運んだり、手を合す機会が多くなりました。神社仏閣や、徒歩だからこそ気づくことのできるお地藏さんや、小さな祠、石碑などから今まで知らなかった町の歴史に触れることができるのも一つの楽しみです。

さて、街道歩きが一番の楽しみはやつぱりお店、多くのお店がすでに閉業してしまっている中、まだ営

業している商店やお菓子屋さんが残っていることもあります。そういうお店に入るとかつては多くの人がうさうであったようにお店の方との会話が。お店の歴史や商品のこだわりを聞かせていただいた上でお店の商品を食べるとさらにおいしさが上回る気がします。

こういう街歩きつてテレビ番組の口元のように見慣れた町もテレビで紹介されているのを見ると、魅力を見え始める。ひなびたお店だなど入ったこともなかったお店の商品が意外とおもしろい。そう、そういうテレビの口元番組で街歩きが自分自身の身をもって体験できる、しかも歩くので運動になる、コロナ禍であっても人混みとは無縁でよし、おすすめレジャーです。ただし必ずと言っていいほど何か食べ物買つて食べちゃうので、運動した分はプラスマイナスゼロかもしれませんね。

小さな愉しみ

徳島玉翠会幹事

佐々木園子（昭和五十八年卒）

数年前知人からメダカの卵の付いたホテイアオイをもらったのがきっかけで、私はメダカ沼に足を踏み入れてしまいました。その日のうちに早くも孵化し始め、慌てて赤ちゃん用の餌を買いに走り育兒スター。他の観賞魚とは違いエアリーやフィルター無しでも大丈夫なので、実は飼育は楽なのです。最近ブームになつてくる理由の一つでしょう。

テレビで紹介されることも増え、一〇〇万円の値が付いたものもあるそうです。ちなみにメダカの寿命は二年程度。早く成長するということが品種改良しやすく、洗面器で二、三年飼育していた初心者の方が新しい品種を作り話題になりました。ならば私も、と試したこともありましたが、かわいいような色合いの子が生まれてしまい、以来挑戦はやめました。

さて、メダカは人からもらうかペットショップで買うのが手取り

早いのですが、育児が好きな（？）私はネットオークションで卵を購入しています。そこでは、たいいてアマチュアの愛好家が出品していて、小さな容器に二十個程度を入れて送ってくれます。

それを使わなくなった子供の勉強機でハ○キルーベを掛けビンセットで卵をチェックしている姿は、ほぼ幽霊部員だった高校時代の生物部の時よりも真剣かも知れません。今年は四種類も買ってしまった。緑、紅白、オレンジ、水色で鱗長。高いものはあきらめ一個一〇〇円まで、と決めてはいるのですけど、メダカたちの美しさについてポチっと手が出してしまうのです。そんなに購入していたらどんどん増えて收拾がつかなくなってしまうでしょう。育ててみないと分からないところがあり、確かに丈夫で爆発的に増えるものもいて、貰い手探しに四苦八苦することもあります。逆に美しく品種改良されたものは弱いようで、孵化はしても一年後に残るのは今のところ一割程度。せつかく生まれた命を無駄にしないために飼育方法を日々模索中です。



編集後記

京都在、徳島出身の義兄から「昭和わたしの証言V」というタイトルの単行本と四国新聞の書籍紹介文が送られてきた。香川大学名誉教授お二人の先生方が刊行された激動の昭和証言集である。「香川県にゆかりのある二十六名が執筆しているか

2022年度各玉翠会総会・懇親会の予定

東京玉翠会	7月9日(土)	オンライン開催
東海玉翠会	9月17日(土)	名鉄グランドホテル
関西玉翠会	10月9日(日)	ザ・リッツカールトン大阪
岡山玉翠会	11月20日(日)	アークホテル岡山

ら千香さんの知り合いがいるかもしれない。」と。戦中生まれの義兄と一回り違う私は、実に平和な時代を生きてきた。高校一年時夏休みの登校日は、「戦争を語る」と題した現国河村義次郎先生の宿題があったが、確か誰の手も挙がらなかった。若者氣質を三無主義で説明された時代だった。呉の軍需工場でヒロシマの原爆を知った大学一年生の父、高松空襲の中を家族で幸町まで逃げた母。語り継がれていた話がこぼれてしまった。二十六名の足跡を読みながら未だ生まれていなかった頃の故郷を想う。萩原幹生氏（元宇高連絡船船長）の旧高松駅の切り絵表紙が実に懐かしい景色だ。

激動の令和期。今年も総会、懇親会が中止になり、簡易な会誌編集となりました。ご寄稿いただいた本部の間島会長様、榎田前会長様、中筋校長先生、徳玉会の役員方々に厚く御礼を申し上げます。松下印刷の浦川様には多大な無理を申しました。深謝申し上げます。

No more war. Go away coronavirus.
二〇二二年六月
徳島玉翠会事務局編集担当
邊見 千香（昭和四十九年卒）



二〇二二年徳島玉翠会会誌 （二〇二二年六月三十日発行）

編集発行

徳島玉翠会事務局
〒七七九一三〇三
徳島県吉野川市川島町桑村六四一五四
坂口方
TEL 〇九〇一四九七四一・九三三四
e-mail: mjhde@mapikarane.jp

印刷

松下印刷株式会社